

2025年度入試 文学研究科 解答又は解答例及び出題意図

課程	博士課程前期
実施期	Ⅱ期
科目名	文化人類学
	解答又は解答例 及び出題意図
〔Ⅰ〕	〔出題意図〕 近年の文化人類学における「マテリアリティ」研究の隆盛をうけて、それを実際に調査研究を実施する場合を想定し、その構想にどのように反映させるかについて、研究立案能力を問うた。①研究題目、②研究の目的と課題設定の背景、③研究対象と方法、④主な研究内容を示す目次構成、⑤予想される成果、の各記述項目を説明することにより、妥当なリサーチデザインを組み立てられる能力を有するかどうかを問うているところがポイントである。
〔Ⅱ〕	〔出題意図〕 いずれも文化人類学の基本的概念や専門用語についての基本的理解ができているかどうかを問うものである。 (1) 伝統的生態学的知識 (Traditional Ecological Knowledge = TEK) 〔解答例〕 先住民など特定の生活集団が、自然環境の観察と働きかけを通じて蓄積し代々受け継いできた知識。農林水産業や牧畜などの生業知識や防災のための生活実践などをふくむ。 (2) ブロマンス (bromance) 〔解答例〕 英語の brother と romance を組み合わせた造語。男性同士の深い感情をともなった緊密な関係を意味する。必ずしも恋愛感情をともなわない点で、「BL(ボーイズラブ)」とは異なる。 (3) コミュニタス (communitas) 〔解答例〕 アメリカの人類学者・ヴィクター・ターナーが、その儀礼研究において用いた用語。通常の状態における共同体のありかた「コミュニティ」とは対比的に、通過儀礼、巡礼、革命運動など非日常の状態において現出する反構造的共同性であり、匿名性、平等性、臨時性などの特徴をもつ。 (4) 遠隔地ナショナリズム (long-distance nationalism) 〔解答例〕 たとえばディアスポラなどの故郷離散者が故国に対してもつ思慕やイデオロギーのように、距離的に離れた郷里・郷土に対してアイデンティティをもち、政治的活動や芸術的表現、教育的知識継承などを実践する一連の運動を意味する。

〔Ⅱ〕	(つづき) (5) 互酬性 (reciprocity) 〔〈一般的〉・〈均衡的〉・〈否定的〉の三様態〕〔解答例〕ものやサービスを相互恵与する関係。マーシャル・サーリンスは、家族親族間によくみられる 即座に返報を求めない「一般的互酬性」、市場における商取引のように等価交換を原則とす
〔Ⅲ〕	〔出題意図〕いずれも文化人類学史上、大きな貢献をはたした文化人類学者の業績を説明することを通して、文化人類学の学說的積み上げを説明できるかを問うものである。たとえばマルセル・モースであれば『贈与論』、『呪術論』などによって、フランス社会学年報派と文化人類学との橋渡しをする一方で『エスキモー社会』において、生態的環境と社会生活の関係に関する先駆的研究も行った。メアリー・ダグラスの場合はレレ族のフィールドワークを皮切りに、『汚穢と禁忌』においてケガレ論・タブー論を社会人類学・象徴人類学の観点から明らかにし、近年のリスク論などへも多大な影響を及ぼした。マーガレット・ミードは『サモアの思春期』などで青年心理の相対的なアプローチを実地調査によって明らかにし、文化とパーソナリティ学派とよばれる理論形成を担ったほか、アメリカ大衆イデオロギーとしての文化相対主義の深化にも貢献した。川田順造は日本を代表する文化人類学者のひとりで、『無文字社会の歴史』において文字を媒体としない歴史伝承についての研究をおこない、伝承における声や音の重要性を指摘するとともに、「文化の三角測量」などの調査研究理論を提唱した。